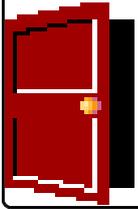


令和5年度《昨年度に続き、今年度も読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

No. 11

桑村小学校令和5年5月15日 文責山地

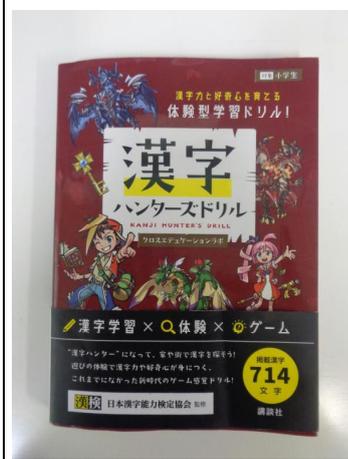
本の世界を実体験

私の本との出会いは、幼少期の母の読み聞かせです。決められた時刻までに寝る準備をして布団に入ると、童話を1冊読んでくれました。その時間が楽しみで、毎晩夕飯を食べ終えたら一生懸命寝る準備をした記憶があります。自分で本が読めるようになって、就寝前にはわずかな時間でも本を読むようになりました。おかげで、これまでにたくさんの本と出会うことができました。

中でも心に残っているのは、中高生の時に読んだ椎名誠の「あやしい探検隊」のシリーズです。なぜなら、本で楽しんだ世界を実体験できたからです。「あやしい探検隊」シリーズは、日本全国津々浦々に椎名誠とその仲間がキャンプに行き、焚火を囲みます。私も、このシリーズを紹介してくれた友人と、バスや船を利用して、天城や大瀬崎、伊豆大島にキャンプに出掛けました。雨が降ってきてしまい、テントの中が水浸しになってしまったり、海岸ではもう少しで波にのまれそうになったりなど、失敗も多かったですが、実際にキャンプを体験したことで、もう一度本を読み直したときに分かったこともありました。

本の世界で経験したことを実体験することで、想像だけでは分からなかったことが分かるようになります。本の世界と実体験をリンクさせる、そんな楽しみ方もいかがですか？

我が家のブームを紹介します



最近我が家は外出する際に、「漢字ハンターズドリル」（講談社）を持って行きます。この本は、街で見つけた漢字を記録し、それをヒントに謎を解いていくルールです。子供たちは、1つでも多くの漢字を見つけようと、看板やメニュー表、自動車のナンバーなどをよく見るようになりました。

ゴールデンウィーク中には、「煙」と「菌」がどこにあるか探していました。（どちらも駅で、「煙」は「禁煙」の看板、「菌」は自動販売機の「抗菌加工済」シールから見つけていました。）

文章を楽しむわけではありませんが、漢字への興味は高まっています。こんな文字の楽しみ方も面白いですよ。

----- 切り取り線 -----

「読書活動の扉を開く」（ 月 日号）を読んだ感想
（ ）年（ ）